

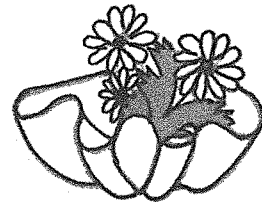
ひまわりからの メッセージ

97号

2019.7.8

NPO ひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター
発行人：中野にみ子

身の巡り



毎年、梅雨が明ける頃に、庭先の百日紅が咲きはじめます。
マラスペリ

百日紅赤きが先に咲きいでて

秋に入りても咲く白き花 松村英一

わが家には、赤い花の咲く木と、実生からはえた紫がかった
ピンクの花しかなく、比べようがありませんが、百日紅が咲く頃
になると、この一首を思い出します。幼い頃の記憶というものは面
白いものです。

ところで、令和だ、改元だと言っていたのはいつのことだったかと
思える程に月日は流れて、子どもたちはもうじき夏休みを迎
えます。私が小学生の頃、夏の宿題に昆虫採集と植物採
集がありました。母に、宿題を早くやるようにと言われ、つげ
たにもかかわらず、遊び呆けていて、お盆すぎに、やっと重い

腰を上げたのでした。でも、昆虫で見つかるのは、蟬と、し
じみ蝶だけ。植物はすでに秋の草になっていました。母か
らは、「だから言ったでしょう」と、手厳しいお小言をもらった
ことを思い出します。毎晩眠れず、隣室から洩れくる豆
雷球のオレンジの光を見つめて後悔したものでした。

キッと今年も何人かの子どもたちが私のような思いをする
のだろうなあと思いついて遣ういます。

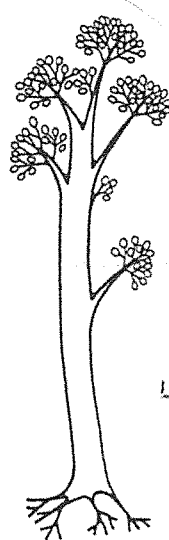
ただ、今も私は身の回りの事柄を早く片づけられず
机上に本や書類を積み上げて、原稿の期日に追われ、
気持ちばかりあせる日々を送っていますから、「三つ子の魂
百まで」のことは通り、おそろく一生この様に過ごしてし
まうのでしょうか。

最近、とみに老化が進んできたわが愛犬ポポは、とぼと
ぼ散歩の途中でしばらく立ち止まって、「私、たどがれてい
るのよ」と言わんばかりに長い休憩をとっています。もし
かしたら私も、もう少し年齢を重ねたら、たどがれ時を
楽しむ余裕もできるのでしょうか。点滴のための通院、
栄養ドリンク、排泄……と老犬介護も忙しくなりつつあ
ります。仔犬から老犬へと、人の一生を見るごとく学ば
せてもらっています。物言えぬ者の声をどう聴くのか、動
きや眼差しの中に、その答を探る日々でもあります。

S.E.N.Sの会
公開研修

「通常学級での

多層指導モデルMIM



先日、特別支援教育士(S.E.N.S)の会が主催したMIMの研修会に出かけました。岐阜市・大垣市・各務原市の教育委員会が後援になっていましたので、通常学級の先生方も多いのだろうと思いましたが、参加者は通級の先生の出席が目立ちました。

以前、この「ひまわりからのメッセージ」でも一度ご紹介させていただいたことがありましたが、今回は、国立特別支援教育総合研究所の海津亜希子先生と、東京都の公立小学校の栗原光世教諭の公開研修会でした。

● 読みのつまずきの早期把握・早期支援

研究は二〇〇六年から始まりました。LDは、学習につまずいてはじめて支援が開始されます。しかし、つまずきを示した子どもに対し、「そのうち習得できる」「もう少し様子をみましょう」等と効果的な支援がなされないと、そのつまずきは、ま

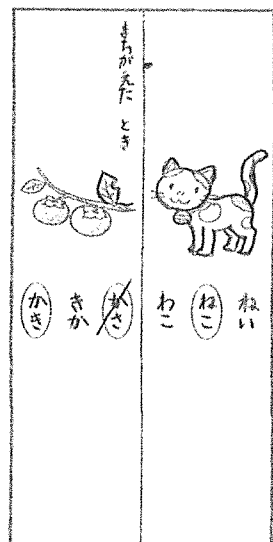
ずまず深く、差が広がっていつてしまふ。そして、二次的な障害の併発、不登校、自己肯定感の低下などが起こってくる。

● MIMとは何か？

MIMは Multilayer Instruction Model の略で、通常学級において異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援をしていくこととするモデルです。

特に、子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが深刻化する前に指導・支援を提供していくことをめざしています。

まず、アセスメントとして、通常の学級での実態把握をします。(MIM-PPM) それには二つテストがあります。
テスト① 絵に合うことばがし

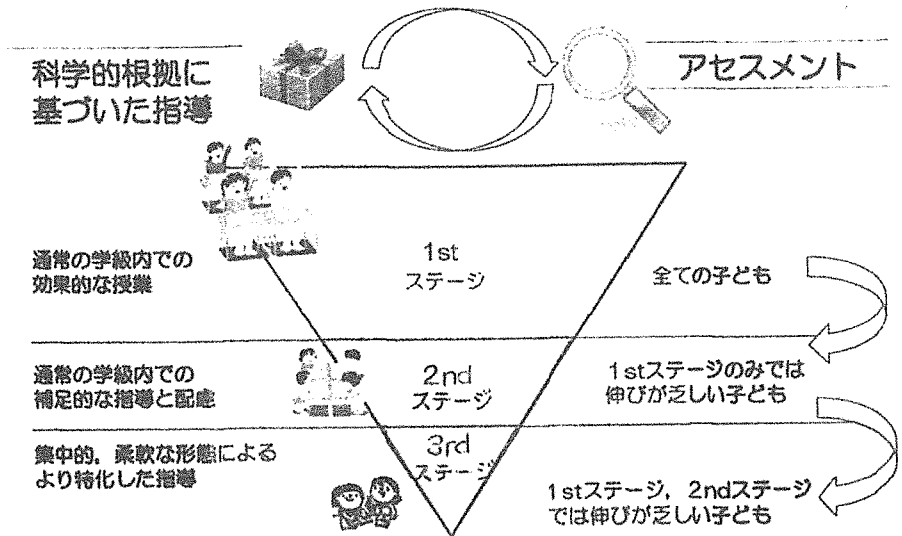


② 3つのことばがし

いぬはないちご

みかんくつかいだん

● MIMで何をどう教えるか。
 通常の学級に四・五パーセントの割合で在籍するとされるLD
 様の子は、特殊音節に低学年時代からつまづきを示すことが
 ある。特殊音節は他の仮名文字のように文字と音が一対
 一対応しないため、頭の中で音の操作が困難な子どもにと



通常の学級における多層指導モデルMIMにおける重要な要素

(MIM研修会資料より抜粋)

って習得が難しい。

へ早期支援の重要性

九歳までに適切な教育が受けられなかった子ども
 の場合、その内の約七〇パーセントが読みのつまづ
 きを生涯持ちつづける可能性がある。

● MIMにおける指導

1st
 ステージ
 全ての子にMIM-IPMを実施。(五月と三月)
 国語の年間計画の中に位置づける。
 繰り返し練習することでスキルを習得。
 日常生活の中で使う。

従来の特殊音節の指導(音の違いを音で理解)

視覚化や動作化を通じた音節構造の理解

(音の違いを動作で、音の体感)

逐字でなくかたまりとして語を捉える。読みの速度の

向上をはかる。

日常的に用いる語いの拡大と使用。

※ つまづまる音は、音が消えることを発見し、手ににぎり
 ぐるの形で表現する。

